

# 世界旅打ち気分

●第7回・アメリカのフェア競馬

須田鷹雄



フェーンデイル競馬場の本馬場入場の様子。



フェーンデイル競馬場のパドック。  
曳かれているのがミュール(ラバ)。



残念ながら廃止になってしまった  
ペイメドウズ競馬場。

写真のカラー版は  
<https://www.instagram.com/sudatatakaoshoten/>  
#グリーンファーム会報#2018年7月号  
でご覧いただけます

<https://www.instagram.com/sudatatakaoshoten/>

私ははじめてフェア競馬というのを見たのは03年8月。いまはもう廃止になってしまった競馬場だが、サンフランシスコのペイメントウズ競馬場においてだった。ペイメントウズ競馬場はそこそこの競馬場で、ゴールデンゲート競馬場とともに北カリリフォルニアの2大競馬場だつた。ただ私が見たのは通常の開催ではなく、フェア競馬として行われ、その会場として使われているのがペイメントウズだつたというわけだ。

これはサン・マテオ郡のフェア競

と同様に短い距離でレースをすることがほとんどなのだが、スピードインデックスという数値でクラス分けがなされる。それがディリーリーシングフォームを見たときに感じた違和感の一因だつた。

いざ一レースの「出走ラバ」がパドックに現れてみると、確かにラバである。体高は低く、前後にも小さめで、耳が長い。個体によって馬に近い雰囲気のものとラバに近いものがあるが、決定的に違うといふことはない。

レースはなかなかの迫力だつた。私が見たときは直線レースばかりだったので、クオーターホースの競走と全く同じように一気に押し寄せてくる。違う」といえば、鞍上・鞍下のバランス。ラバはおそらく大きく見え、乗られているラバは小さく見える。表彰式で騎手が乗つたまま口取りなどすると、特に上下バランスが面白い。ただラバは使役用につくられている動物なので、騎手の重さが苦になるということもないようだ。レースはそれなりのスピードで行われる。レースはすべてミコールで行われるところわけではなべ、サラブレッ

トやアラブのレースもあつた。おそらく以前にはアバルーサやペイントホースといった品種のレースもあつたはずだが、03年のフェーンデイル競馬では組まれていなかつた。

こういった開催に出走するサラブレットは下級条件中の下級条件といつた感じで、クレーーミングレース(指定された価格で誰でも出走馬を購入できるレース)のクレーミングプライスが2500ドルぐらゐだつたりする。

ただ、開催最終日の最終レースだけは「大一番」が組まる。サラブレットによる「ファンボルトカウンティマラソン」だ。距離は1~15/8マイルといふから、およそ2600m。フェーンデイルは1周800mなので3周以上する」ことになる。総賞金は約2万ドルで、1着賞金は1万2000ドル。ちなみに昨年のこのレースは8頭が出走した。フェーンデイルや他のフェア競馬を選んで走つている馬も多いが、前走では主要場であるデルマー競馬場で走つていたといつ馬もいる。しつかりデータを探つたわけではないが、主要場から転戦してきた馬のほうが強いようだ。

17年の勝ち時計は2分56秒フライア競馬場はペイメントウズ競馬の閉場とともに廃止になつてしまつた。競馬 자체が苦しいこともあり、フェア競馬もじりじりとその数字を減らしつつある。バレッツセールが長年行われていたフェアフレックスパーク競馬場が廃止になつたことを御存知の会員さんも多いだろうが、そこで行われていたLAカウントナーのフェア競馬も同時に廃止となつてしまつた。

サン・マテオのフェア競馬はふだんちゃんととした開催をしている競馬場だつたこともあつて私自身「フェア競馬を満喫」という感じでもなかつたのだが、同じ旅でその後に訪れた競馬場は「これぞラバ競馬」という感じだつた。

その競馬場はフェーンデイル競馬場。行われるのはフンボルト郡のフェア競馬である。ちなみにこの競馬場は「のフェア競馬のみに使われる競馬場だ。

サンフランシスコからプロペラ機で北に一時間ほど飛んだユーリカ・アルカタ空港。そこから車で1時間ほど走つたところに「フェーンデイル競馬場はある。といつても訪れたのは03年。スマホをカーナビがわりにしながら、というわけにはいかない。車にナビもついていない。日本で道順を調べ、その結果をプリントアウトしていった紙とにらめっこしながら、なんとかたどりついたのだった。

飛行機の時間が早かつた」ともあり、到着したのは一レースの発走1時間前ほど。デルマーなど他場の馬券は売り始めていたのでそれを買いつつフェーンデイルの「レースを予想しようとしたのだが、どうも様子がおかしい。読みなれているはずのディリーリーシングフォームなのに、出馬情報のフォーマットがいつもと違うのだ。

これはどういふことだ? と思いながらレースの施行条件を見てみると、「ミコール」とある。ミコールはサラブレットではなく、ミコールIIのロバとメスの馬を交配して生まれる動物で、サイズや雰囲気もロバと馬の中間くらい。生殖能力がなく、仮にミコールのレースで大活躍したとしても、種馬種ラバ? や繁殖牝馬にはなれない。

このミコールはクオーターホース

ラット。レコードタイムは94年にマスクされた2分44秒6だそうである。お祭り開催のお祭りレース賞金だけでは説明できない盛り上がりを見せることがある。

今回成績を振り返つてみてちょうど心配なのが、出走頭数が減つてゐる。開催日数も以前より減少しているようと思える。賞金の安い開催ほど馬資源不足になる現象はどうの国でも見られるが、やはり「郡のお祭りだから」だけでは出走馬を集められなくなつてゐるのだろう。ラバのレースも他州を含め縮小傾向なので、マニアの皆さんには見られるままのうちに見ておくことをおすすめする。

ちなみに今年は8月16~19日と、8月24~26日の計7日間開催。実に第1~2回目を迎える伝統のフェアだそうである。

カリフォルニアのフェア競馬は他のアーヴィングトン、サクランメント、フレズノ、ソノマで行われる。プレザントンはサンフランシスコから車で1時間半ほど、サクラメントはサンフランシスコ・ロサンゼルスから直行便のある都市なので、フェア競馬デビューの容易さと云ふことではそもそもおすすめだ。